

ふじみサラダボール子育て情報



「生活の言葉」
令和7年4月30日号
板橋富士見幼稚園



ちょっとだけ待って

子どもに対して、親は意外と待てぬものです。大人は大人の生活サイクルで動いているので、子どものサイクルに合わせるのは、なかなか難しいところがありますよね。時間があれば、ゆったりとしてあげたい気持ちはやまやまだと思います。

子どもは、親の生活サイクルを理解できていません。特にこれからの夏時間は、夕刻 7 時でもまだ夕方の時間と勘違いする程の明るさです。時計を見て「えっもうこんな時間?!」と、慌てて夕食作りを始めた経験はありませんか。子どもにとっての昼夜は、本能的なものです。明るければ遊びの時間、目が覚めれば朝ごはんの時間、暗くなると寝る時間と、明るさ暗さ、そしてお買い物に行く時間、お風呂の時間、ご飯の時間などで、感覚をつかんで生活しています。家の中や外出先の自然の中で遊んだりするときに、そろそろ引き上げる時間だからと、ついつい「帰るよ」「おしまいよ」「早くして」「なにしているの」「行っちゃうわよ」と急き立てる言葉掛けをしてしまうことがあるかと思います。

そんな時“ちょっとだけ待って”まず、言葉掛けする前に、子どもの遊ぶ姿を見てあげてください。考えている時、一所懸命取り組んでいる時、遊び道具が散らばりすぎている時など、いろいろな状況が見えてきます。

考えている時は、ぜひそっと見守ってあげてください。一所懸命取り組んでいる時は、「なにしているの」と、優しくそっと語りかけてあげてください。その際、急いでいる事を感じ取らせないように、落ち着いて聞いてあげてください。これが子どもの学びを伸ばす秘訣です。遊び道具が散らばっている時は、視野から一番遠いところから、少しずつ片づけてあげてください。そして、「そろそろおしまいにする理由」を伝え、待てなくなる時間までには、子どもが納得し「楽しかった」と思える時間にしてあげてほしいものです。



【 春の実り 】

園庭のイチゴが赤く実り、
杏の木も小さな実をつけはじめました。
赤いイチゴを発見すると嬉しそうに
摘み取って、刻んでみんなで味わいます。
こうした経験を重ねて自然を大切にする心を
育てていきます。

